

平成 22 年 4 月 8 日現在

研究種目： 基盤研究（B）

研究期間： 2007～2010

課題番号： 19401025

研究課題名（和文） 19 世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策

研究課題名（英文） The Change of Relation between Russia and China and the Japanese policy toward Northeast Asia in the second half of the 19th century.

研究代表者

麓 慎一（FUMOTO SHINICHI）

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：30261259

研究分野：日本近代史

科研費の分科・細目：人文学 日本史

キーワード：日本史 ロシア 清朝 韓国

1. 研究計画の概要

19 世紀後半におけるロシアと中国（清朝）の関係の変容が日本の北東アジア政策をいかに規定していたのかを研究する。

2. 研究の進捗状況

これまで日本の北東アジア政策を分析するために利用されることが極めて少なかったロシア所蔵の資料群を調査して当該研究課題を進めてきた。ロシア海軍文書館（サンクト・ペテルブルグ）・ロシア国立文書館（モスクワ）・ロシア外務省外交資料館（モスクワ）などで露清関係・露日関係の文書館群を収集し分析することで、これまでの外圧の理解が不十分であることを論証した。

とりわけ、韓国国史編纂委員会が収集した北東アジア関係のロシア語資料を 2009 年から調査し、利用することができるようになったことで研究が大幅に進んだ。

研究成果としては、特に以下の 4 点をあげることができる。

(1) 日露戦争の開戦についてロシア側の一連の重要会議（旅順会議とサンクトペルブルグ）を分析することができた。

(2) 日本（新潟・函館）とロシア極東（ウラジオ・ストック）の直通定期航路の就航がロシアの義勇艦隊の勢力拡大への対抗策であったことを論証した。

(3) 明治維新时期における日本の北東アジア政策、とりわけ朝鮮政策の動因にロシア脅威論があることを明確にした。特に、北京条約以後の朝鮮人のロシア領土内への移住が、日本のロシア脅威論となっていたことを論証した。

(4) 日本の中国（上海）への昆布の輸出を

検討することで、北海道のアイヌが昆布市場という北東アジアの貿易活動に影響を受けていたことを解明しつつある。とりわけ、ロシアの昆布の中国への流入が日本の昆布市場を大きく規定していることを解明したことは、大きな成果であった。

以上の四点が特に大きな成果である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。海外資料（特にロシア語資料）の収集に多大な時間を要すると予想していたが、多くの重要資料が韓国国史編纂委員会に所蔵されており、大量にしかも短時間の間に複写することができた。これにより、予想以上に研究が進捗した。

4. 今後の研究の推進方策

2 の「研究の進捗状況」で示した（4）の点を集中的に研究することで、昆布市場を通して日本の北東アジア政策とアイヌ社会の関係を分析する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

麓慎一「日本開国期における帝政ロシアのサハリン島政策」『東京大学史料編纂所紀要』査読無 19 巻 117～126 頁 2009 年
麓慎一「井上馨内務大臣の『北海道ニ関スル意見書』について」『環日本海研究年報』査読無 15 号 33～45 頁 2008 年

〔学会発表〕(計1件)

麓慎一「開国と函館－太平洋と東アジアの結節点となった町－」外国人居留地研究全国大会 2009年10月10日 函館市立図書館

〔図書〕(計1件)

麓慎一「国際的環境から見た日露間の航路形成」左近幸村編『近代東北アジアの誕生』北海道大学出版会 61～82頁 2009年

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕